

ヤナギヌカボ

Polygonum foliosum H. Lindb.
var. *paludicola* (Makino) Kitamura

タデ科
Polygonaceae

カテゴリー

大分県 II
環境庁 II

選定理由 県内の生育地は散在し、しばしば群生するが、生育範囲は狭い。1年草のため、生育環境の変化で生育状態に消長がみられる。土地の改変や水環境の悪化で生育地の減少が懸念される。

県内分布 中津・宇佐低地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大野川上流域

分布域 北海道 本州 四国 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
朝鮮半島

生育環境 低地から低山地の湿地や湿った林縁。

現 状 生育環境が不安定で、生育状態が持続しているかどうか把握されていない所がある。

ヌカボタデ

Polygonum taquetii Lév.

タデ科
Polygonaceae

カテゴリー

大分県 II
環境庁 II

選定理由 県内の生育地は点在し、しばしば群生するが、生育範囲は広くない。1年草のため、水環境による消長が著しく、生育環境の変化で生育地の減少が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地，中津・宇佐低地，九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域 本州 四国 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
朝鮮半島

生育環境 低地や丘陵地の湿地。

現 状 かつての生産地で、生育状態が把握されていない所が多い。

フトボノヌカボタデ

Polygonum kawagoeanum Makino
var. *densiflorum* (Hara et I. Ito) Ohwi

タデ科
Polygonaceae

カテゴリー

大分県 II
環境庁 掲載なし

選定理由 分布域はごく狭く、県内の生育地は希。池畔の一部に生育し、個体数は少ない。生育する池畔は人類文化地と接しているため、生育地が攪乱され、水環境の変化もあって、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 中津・宇佐低地

分布域 本州(千葉) 九州(大分)

生育環境 低地の池畔。

現 状 生育地の池畔は、ほとんどが広場の緑地帯となっていて、常に人為が及んでいる。

備 考 分布域はごく狭く、本県は、分布の南限域にあたる。